

ガーデンアリーナ新百合ヶ丘

Garden Arena Shinyurigaoka

No. 23-001-2010更新

新築
集合住宅

発注者	三井不動産レジデンシャル(株) 三菱地所(株) 小田急電鉄(株) 小田急不動産(株)	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO ₂ 技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB
設計・監理	三井住友建設一級建築士事務所	E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携	
施工	三井住友建設・大和小田急建設共同企業体	I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他	

緑に抱かれ四季を愛でる、丘の上のサンクチュアリー

緑に抱かれ四季を感じられるランドスケープ

当計画地の総敷地面積は約3万3000㎡。5棟構成697戸。第3山の手エリアの代表的な町「新百合ヶ丘」駅近くに立地し、整然とした街並みや緑あふれる並木道に代表される山の手の名に恥じぬ美しい街並みの中に建設された。

万福寺土地区画整理事業地における初めての大規模共同住宅であり、環境アセスメント上の制約である「緑量の確保」を前提に、敷地の特性（高低差、ビオトープ、既存緑地）を活かした住棟・人工地盤による地下駐車場・共用部の配置と外構計画に取り組んだ。建物は、方位に配慮した南側重視の配棟計画とし、それぞれの街区の間は約50メートルの隣棟間隔を確保し、棟と棟の間にそれぞれ人工庭園を設けた。

その人工庭園下部には地下駐車場を設け、地上には駐車場は全く見えない計画とし緑化計画に努めることで、生活空間にふさわしい四季を感じる事の出来る自然形成を図った、そんな景観の創出を目指した。それにより、広い敷地のうち約半分（49.3%）は緑地が広がっており、居住者にも周辺地域へのまちなみ・景観にも配慮されたアースカラーの外観でまとまったシンボル性の高い作品に仕上がった。



外観写真

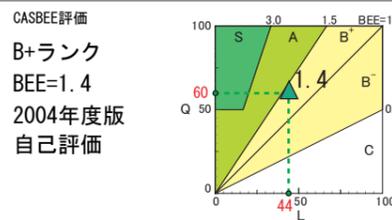


航空写真



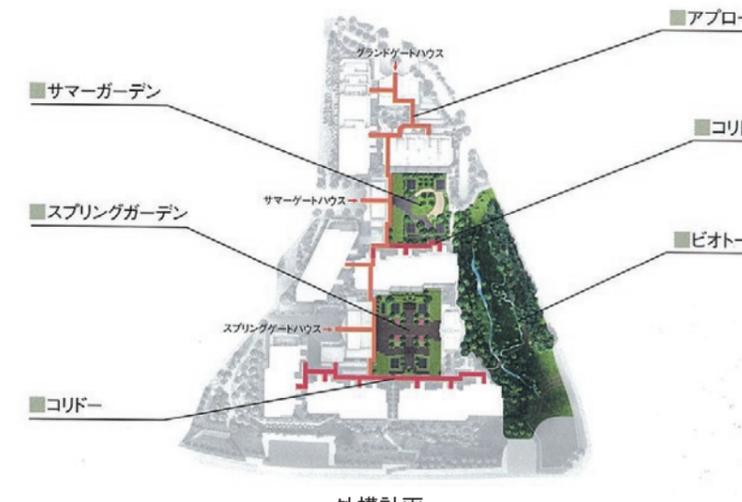
建物データ	所在地 神奈川県川崎市
竣工年	2007年
敷地面積	33,954㎡
延床面積	86,706㎡
構造	RC造
階数	地下1階、地上14階

省エネルギー性能	品確法省エネ対策 等級 3
----------	---------------



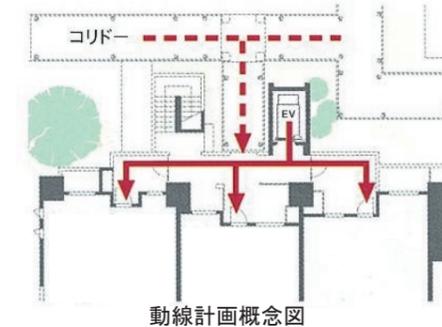
環境共生を身近に感じられる空間形成

敷地の東側には緑濃い既存の森サンクチュアリーフォレストがあり、その中に環境共生をテーマに既存の生態系を保存したビオトープが南東角に位置している。水辺の生き物が暮らす里山の自然を敷地内に保存することで日々の生活においても居住者が身近に自然を感じられる空間を残す計画とし、又、建物からの人工照明は極力差し込まないような配慮をした。このビオトープを保存するには居住者の自然との環境共生に対し意識してもらうことも目的としており、将来もずっと残していく空間であると自然に認識してもらうことも意図して計画した。



住民にやさしい動線計画

各街区の建物は大きく3つに分かれ、「ビューコート」、「ガーデンコート」、「ヒルトップコート」と名付た。それぞれのコートハウスには車寄せを設け、居住者動線も住宅は緑の間を通る回廊を抜け、1フロア3戸~4戸に1基ご用意したエレベーターホールへ段差なくアプローチが可能となっている。開放廊下型の一般的形式に比べて、住戸へのアプローチのプライバシー性の向上と共に、両面バルコニータイプの設定が可能になり、居室のプライバシーの確保と開放感のある居住空間の形成に努めた。駐車場は戸数分を確保し、地下駐車場へは全て雨に濡れない計画とし、更に駐車場専用のエレベーターを設置することで、高齢者・身障者への配慮と快適性の向上にも努めた。



- 主要な採用技術 (CASBEE準拠)
- Q3. 1. 生物環境の保全と創出 (外構緑化、建築緑化、野性小動物の生息域の確保、ビオトープ)
 - Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮 (豊かな中間領域の形成)
 - LR2. 2. 非再生性資源の使用量削減 (躯体のPC化)
 - LR3. 2. 地域環境への配慮 (方位等に配慮した配置計画)
 - LR3. 3. 周辺環境への配慮 (騒音、振動、風害、光害抑制)



ビオトープ写真



航空写真



コリドー写真